

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200759		
法人名	有限会社 花音		
事業所名	グループホーム 花音 (Aユニット、Bユニット合同)		
所在地	静岡県静岡市葵区水道町126-1		
自己評価作成日	平成27年1月4日	評価結果市町村受理日	平成27年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvoCd=2294200759-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvoCd=2294200759-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年2月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員がスキルアップの為に勉強、研修等を自ら進んで希望する環境になり、認知症対応型施設の認識が高まり、より良い施設運営に職員全員が力を入れています
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るいうらみで職員の声かけと共にラジオ体操が始まります。リハビリ体操や嚙下体操、タオル体操、転倒防止体操とバリエーションに富んだ運動を取入れ、流しそめん機やアイスクリーマーといった遊び心満載のおやつ作りに利用者の胸を高鳴ります。日々向き合うケアの疑問に「正しいことを知りたい」という職員の意欲から提案を順次実行し、うまくいかないかなければ次の方法へと広く採用する管理者の姿勢がアウトプットを意識した勉強会へ繋がり、本年は介護福祉士受験者も5名を輩出しました。「人が好き、ここが好き」と言う職員が集まる花音ならではのゆったりとした空間が醸成されています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	壁に貼られた理念の提示を、職員全員が意識して仕事に取り組んでいる	事業所理念は玄関に掲示されていますが特段話合う機会を設けていません。管理者は、職員の行動と「これはどうしたらいいんだろう」の疑問や提案が利用者視点であることから理念から外れていないと捉えています。	理念を柱として職員のベクトルを合わせ、さらに意識統一が図られることを期待いたします。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りに出掛けたり、ボランティアの方々が来所されたりと、楽しみにしている行事が地域とのつきあいに繋がっている	夏祭りの盆踊りとくじ引きを心待ちにしていますが今年はあいにくの雨天で叶いませんでした。職員の伝手でボランティアも増え歌や踊り、大道芸人が集い毎月第三水曜日には隣町からカラオケ仲間が来所しています。	事業所からの働きかけで地域交流が進められることを期待いたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	周辺が商業及び工場が多い為、地域貢献がいかされていない、町内会が協力的でないのも現状		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市介護課、地域包括、家族より毎回のよう改善点のアドバイスを頂き、サービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員、家族、利用者、法人責任者の顔ぶれにより2ヶ月ごとに定期開催できています。ひやりはっとの分析と助言もあり、大規模災害時の対応への質問から書面を作成して申し合せています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に年1回出席頂き、適切なアドバイスを頂いている	運営推進会議への出席は一度に留まっていますが地域包括支援センター職員が毎回同席し、困難事例や会議のテーマについてもアドバイスがあります。更新申請手続きに窓口へ出向き、介護相談員の訪問もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	意思疎通の難しい方のみ、転倒の危険性がある為にベットの設置のみ行っている	玄関施錠はありません。内部研修で禁止の対象となる具体的な行為を学び、都度カンファレンスで協議しています。単独外出は職員のリレーションと「絶対施錠をしない」という意識の下、別な方向性を促す、話題を変えるなど方法を探っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力に関して、ミーティングを通して個人の性格等を話し合い、どう対応したら良いかをディスカッションしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をいずれ必要とされる方について、関係者と話しをしているが、現状は進んでいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談、入居前には必ず、理解、納得のいく説明を行い、不備が無いように確認している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場を活用し、利用者の出席も促しながら、意見等を運営に反映させている	運営推進会議への参加もあり、面会には対話の時間を作って詳細な現状を伝え希望を聴いています。丁寧なケアへのお礼の言葉もありアンケート結果はミーティングで改善の方策を練っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回代表者を含め、職員全員でのミーティングで意見交換して決定した事を仕事に反映している	レク、清掃、防災、衛生…と、業務を輪番で担当し責任感も培われています。提案を順次実行、うまくいかないかなければ次の方法と広く採用し、申し送りも口頭、ノート、ボードの三重チェックで徹底しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員としては低賃金水準に満足はしていないが、向上心を持って、やりがいある職種に努力、実績を重ねて、評価してもらえるよう努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング等で研修、問題点を抽出して、技術の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を含め、外部と接触が少なく、交流の取り掛かりが掴めていない		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が話しやすい環境を作り、常に耳を傾け、不安や要望に対しての改善に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の希望、不安等、状態を把握し、信頼関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシート、情報を良く把握して、本人が不安にならないように、支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々において、本人とコミュニケーションを図り、一体感の向上に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所された際は、日常生活、出来事を伝え、共に喜びあう事や、不安をやらげける努力をし、共に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者が来所された際は、気持ちを込めて、お迎えして、又来ようと思って頂けるように接している	隣近所や友人を気持ちよく迎え入れ、馴染みとなったことから漬物のおすそ分けもありました。家族と一緒に毎週外出したり、独居だった人が年末年始を自宅で過ごす支援をおこなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースを活用し、全員参加のレク等で、利用者同士の関係の支援をしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、経過、相談対応の支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、本人本位の希望に沿えるように、検討、支援している	入居時は仕事、暮らし方の情報を職員に伝え介護計画に盛り込んでいます。隣に座り一緒にコーヒーを飲みながら聞き出した内容を個人記録簿に記載し、観察備考欄や特記事項で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、家族、面会の方より、情報の収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の共有やミーティングでのカンファレンス等で現状の把握をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングを行い、課題のある方について話し合い、モニタリングに反映している	モニタリングは職員がおこない、ミーティング内におけるカンファレンスで全員で検討しています。家族の意見は面会時や電話で聴取し、訪問マッサージ、看護師の見解もプランに反映されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人簿に日常気付いた点、身体に処置が必要な場合の情報を記録し、職員同士、情報を共有して、改善に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族等と積極的に話しかけて、状況、情報を共有し、柔軟な対応を心がけている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への多様な参加をし、楽しみを増やし、豊かな暮らしが出来るよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々に希望のかかりつけ医に、月1回受診をし、体調管理を適切に行えるよう、情報共有の支援をしている	家族受診が可能な6名がかかりつけ医を継続し、必要項目を『受診報告書』に記して渡しています。看護師の定期訪問もあり、ターミナル期には24時間応じてくれるため協力医に変更しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は入浴時や着替え等に気付いた点の情報を看護師に伝え、適切な対応を共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と適切な情報交換し、利用者が安心して治療でき、早期に退院出来る様に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に十分な説明で理解して頂けるケアの方針を共有できるよう、支援に取り組んでいる	この一年実績はありませんが、協力医の理解と法人看護師、訪問看護の協力を得ながら取り組んでいます。看取りに関する同意書をもって早い段階から方針を相談し、揺れ動く家族の気持ちに沿っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内、外部の研修を行い、職員の知識のスキルアップを図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行ない、それぞれの役割の把握、方法を知る努力をしている	部分訓練、総合訓練、防災避難訓練に分け、年5回防災訓練実施しています。地震、火災、夜間を想定し、通報、消火器取扱い、看護師による応急手当を体験し次回はAED講習も予定しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を尊重して、穏やかな、言葉かけ、心がけの対応をしている	『認知症コミュニケーション勉強会』では言葉かけの方法をテーマとして学んでいます。丁寧語だけでは近い関係形成は難しいとの認識もあり「ちゃん」付けが本人にとって心地よい様子であればよしとしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけに気を配り、本人の思いや、希望を引き出せるよう配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分を把握し、本人の希望した支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や、入浴時などの着替えに職員と一緒に携わり、身だしなみの支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	温かいものを提供し、見た目にも気を配り、彩り豊かな食事を心がけている、買い物同行で食材を選んで頂き、準備段階から参加して頂いている	食事前の嚥下体操は欠かせません。主食と汁物を作り副食はケイタリングですが、時には「何がいいかなあ？」と自宅でき食べた味を思い出してもらいながらスーパーへ出向き、手作り料理を織り混ぜています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各チェック表を活用し、個々に声かけ、工夫した提供を常に心がけ支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に口腔状態を確認し、出来ていない口腔ケアを職員が補足して、清潔保持に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表をチェックしながら、一人で排泄できない方に声かけ、見守りながら排泄の自立を促している	食事前後や体操後など生活リズムと排泄表を基にパターンを把握し「そろそろいかがですか」と誘ってパッドに頼らない援助をしています。夜間はその人の時間や回数にあった声かけをおこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	前日に排便のない場合に牛乳、定期的時間にヨーグルトの提供をし、便秘の予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状況により、日にちを前後したり、順番をかえるなど、個々に対応している	マグネットで示された入浴順で「今日は1番だね」と待つ満足感があります。週3日のペースで、刺激の弱い洗いタオルや石鹸を使用し、看護師が個々に吟味した保湿クリームできめ細かいケアを視認しました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や、身体的低下により、休息が必要な方には個別に対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報、服薬シートを照らし合わせ、身体の状態を理解し、支援に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、笑顔になれる努力、支援を心がけ、充実ある生活を送れるよう支援している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を感じれる時期には車を利用して外出支援をしている	火、木、日、と曜日を決めて食材やおやつを買いに出かけています。月々のレク担当職員が中心となり桜や菖蒲、紫陽花、紅葉狩、菊人形展へと豊富な外出行事があります。同一法人事業所の餅つきや秋祭りにも誘われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で個々のおこずかい財布を管理し、必要に応じ、本人が使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛に届いた手紙や、電話は理解出来る様、確認して取次ぎ支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には刺激物は置かず、季節ごとの飾り付けに工夫を行っている	雛祭り、七夕、クリスマスと季節行事に合わせた装飾を手がけています。脳トレが好きなAユニット、トランプで盛り上がるBユニットと一日の大半をリビングで過ごしています。「きれいが当たり前」という職員が多く自主的に清掃チェックをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室と共用空間を自由に行き来出来る様に配慮をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある物や写真等を飾り、本人が自分の部屋である事を認識できるよう工夫をしている	ベッド、洗面台、エアコンが備付けです。好みに合ったマットレスを持ち込んだり、自筆の掛け軸や机、自宅で使用していた電話機、家族の写真が飾られ、状態に応じて小物をロフトにまとめ混乱期の環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動出来る様、内部的構造、家具等の設置場所を考慮して工夫している		